

ウメのアブラムシに対する薬剤散布状況と防除効果

竹内浩二・星 秀男・小野 剛・渡辺建司*
(生産環境科・*西多摩農業改良普及センター)

【要 約】 青梅市の PPV 発生地域におけるアブラムシに対する薬剤防除は、春季では 4 月上旬からのモスピラン水溶剤の効果が高かった。しかし、夏季にもアブラムシの発生は継続することが判明し、6 月以降の薬剤散布体系を早急に構築する必要がある。

【目 的】

プラムポックスウイルス (PPV) の蔓延防止対策として、本ウイルスを媒介するアブラムシ類に対する有効かつ効率的な薬剤防除体系を構築する。

【方 法】

青梅市の PPV 発生 5 圃場および未発生の 1 圃場と、立川市 (未発生) 1 圃場の計 7 圃場におけるアブラムシ類の寄生枝率および寄生数を概ね 1 週間間隔で調査した。また、各圃場の薬剤散布情報を収集し、アブラムシ発生推移との関連性を検討した。

【成果の概要】

- 1) 薬剤散布状況：②～⑤の 4 圃場は PPV 発生圃場であり、4 月下旬および 5 月中旬に、モスピラン水和剤の一斉散布が実施されたほか、②および③圃場では生産者によりスミチオン乳剤、スタークル顆粒水和剤が各 1 回散布されていた。①圃場は春季一斉防除の対象外であり、防除は有機リン系のマラソンおよびスミチオン乳剤の各 1 回散布であったが、散布時期は上記 4 圃場とほぼ同じであった。また、秋季の一斉防除は 10 月 19 日にウララ DF の散布が青梅市内の①～⑤圃場すべてで実施されている。なお、立川市の⑦圃場は、期間を通じて防除は 4 月中旬のモスピラン水和剤 1 回散布のみであった (図 1)。
- 2) 圃場ごとのアブラムシ発生状況：無防除の⑥圃場では、春季のアブラムシ寄生程度は極めて高く、5 月下旬まで寄生枝率 15～100%、寄生数 30～3000 頭で推移した。一方、青梅市内の①～⑤では、寄生枝率は圃場で異なったが、寄生数は 1～15 頭と、全般的に少なく推移した。しかし、各圃場で薬剤散布を終了した 5 月中旬以降、再びアブラムシの寄生が認められ、圃場によっては 8 月まで断続的に発生が継続した。また、②③⑥⑦圃場では 10 月中旬以降モモアカアブラムシ類似種の有翅虫が飛来し、無翅虫の発生がウメの葉が落葉する 12 月まで継続した。⑥以外の圃場では 10 月 19 日にウララ DF の散布が実施されているが、本剤の防除効果は認められなかった (表、図 1)。
- 3) まとめ：本調査において、2～4 回の防除を実施した圃場では、春季のアブラムシは低密度に推移し、また、立川市の⑦圃場でもモスピラン水溶剤の 1 回散布により発生を 2 週間程度発生を抑えたことから、4 月中旬からのネオニコチノイド系薬剤散布は効果が高いと判断される。しかし、夏季にもアブラムシの発生が継続することが判明し、PPV 防除の観点からはこの時期の薬剤散布体系の構築が急務である。また、秋季にウララ DF 散布で効果が認められなかった原因については、本虫有翅虫の飛来状況や薬剤の散布時期・方法などとあわせて、再検討が必要である。

表1 アブラムシの防除状況(2008年12~2009年10月)

| | 冬期 | 4月 | | | 5月 | | | 10月 | |
|-------------|--------|--------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|
| | | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 中 | |
| PPV 発生地域 | 梅郷6丁目A | 石灰硫黄合剤 | スミチオン(8) | マラソン(19) | | スミチオン(13) | | ウララ(19) | |
| | 梅郷6丁目B | 石灰硫黄合剤 | | スタークル(16) | モスピラン(21) | スミチオン(10) | モスピラン(19) | スタークル(27) | ウララ(19) |
| | 梅郷6丁目C | 石灰硫黄合剤 | | スタークル(16) | モスピラン(21) | スミチオン(10) | モスピラン(19) | スタークル(27) | ウララ(19) |
| | 梅郷2丁目 | 石灰硫黄合剤 | スタークル(8) | モスピラン(20) | | | モスピラン(23) | ウララ(19) | |
| | 長淵 | | | | モスピラン(21) | | モスピラン(18) | ウララ(19) | |
| 未発生地域 | 青梅新町 | | | | | | | | |
| | 立川 | | | | | | モスピラン(21) | | |

注: 太字の薬剤は共同一斉防除による散布

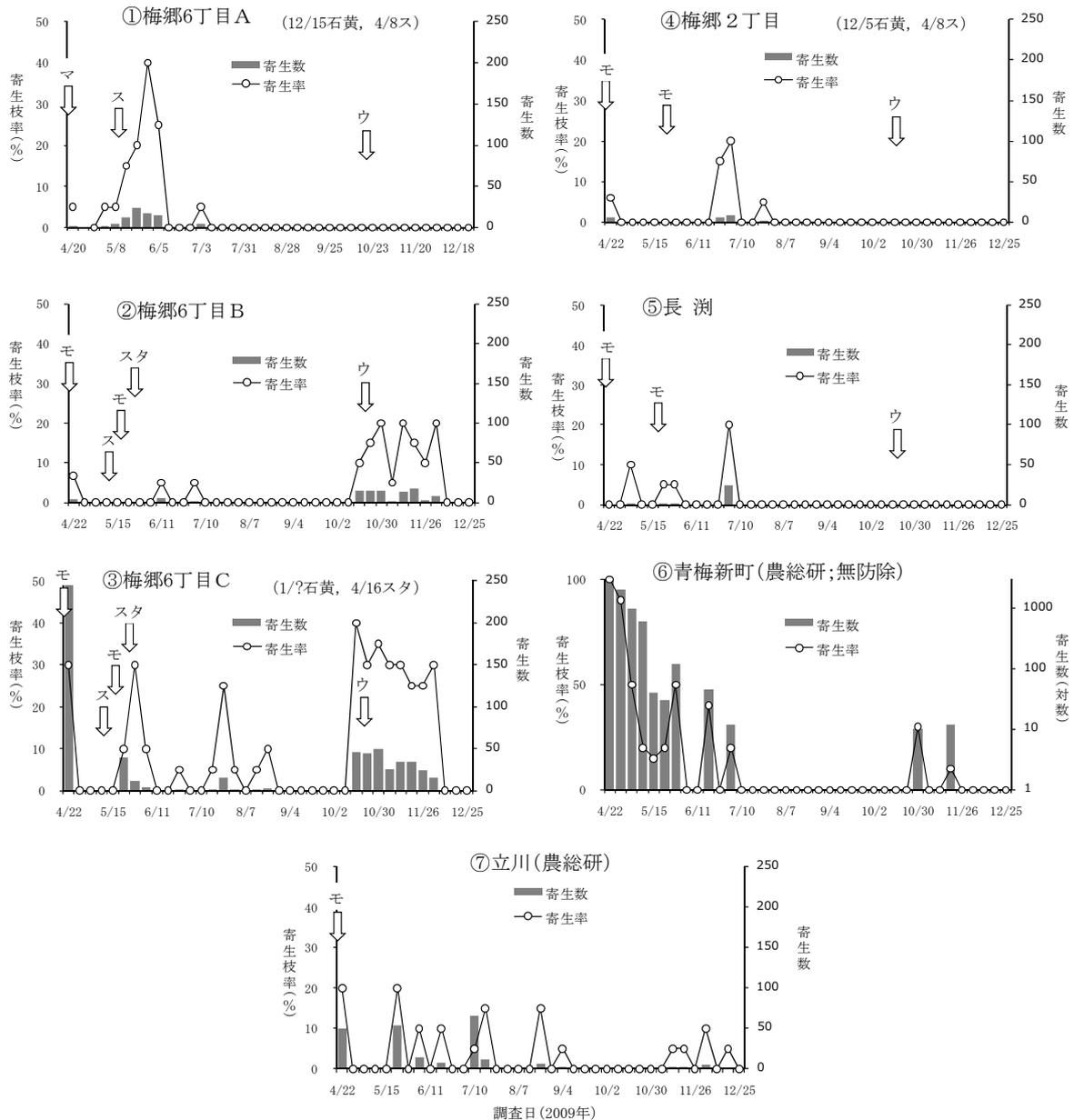


図1 圃場別アブラムシの発生推移(ウメ 20 枝あたり)と薬剤防除

①~⑤はPPV発生地域内, ⑥~⑦はPPV未発生地域, ⑥は春季アブラムシ多発生圃場のためグラフ縦軸のスケールが他と異なる。矢印は防除日, 略記は使用薬剤を示す。ス: スミチオン乳剤, モ: モスピラン水溶剤, スタ: スタークル顆粒水溶剤, マ: マラソン乳剤, ウ: ウララ DF, 石黄: 石灰硫黄合剤, 共同一斉防除(①~⑤のみ), 4月21~23日モ(①を除く), 5/18~5/23モ(①を除く), 10/19ウ